



～カンボジア～

「នៅផ្ទះម្តាយទីដៃ នៅព្រៃម្តាយជាមួយ ក្រមួល(語)」

「ノウ パテッ マダイ ティタイ ナウ プライ マダイ タイ モウイ」

このことわざの一般的な意味は、家で生活するときは家族と一緒にいますが、勉強のためにお寺(昔のカンボジア社会)に住んだり、ビジネスのために外国に行ったりなど、一人で生活をしなければならない時は、家や家族と離れ、知っている者が誰もいない森に行くようなものだという事です。そのため、家や家族と離れて生活している者は、一人で色々大変なことに直面するので、周りの人と家族と同じようにお互いに助け合い、友好的な関係を保つことが重要であるという意味も含まれています。

「家を離れてもお互いに親切にしたり、愛情を持って助け合いをする」という意味のことわざですので、学校の試験ではよく問題として出題されます。

外国や知らない社会で生活をする際に「お互いを知らないからと言って喧嘩するより、助け合いましょう」というメッセージを皆さんに送りたいので、このことわざを紹介しました。



ソウ ヤーリー(横浜国立大学大学院)

### 学生会館からのお知らせ

ホームページ<<https://yish-yoke.com>>

#### ◆留学生による文化講座 ～カンボジアってどんな国?～

留学生が日本語で母国を紹介します。

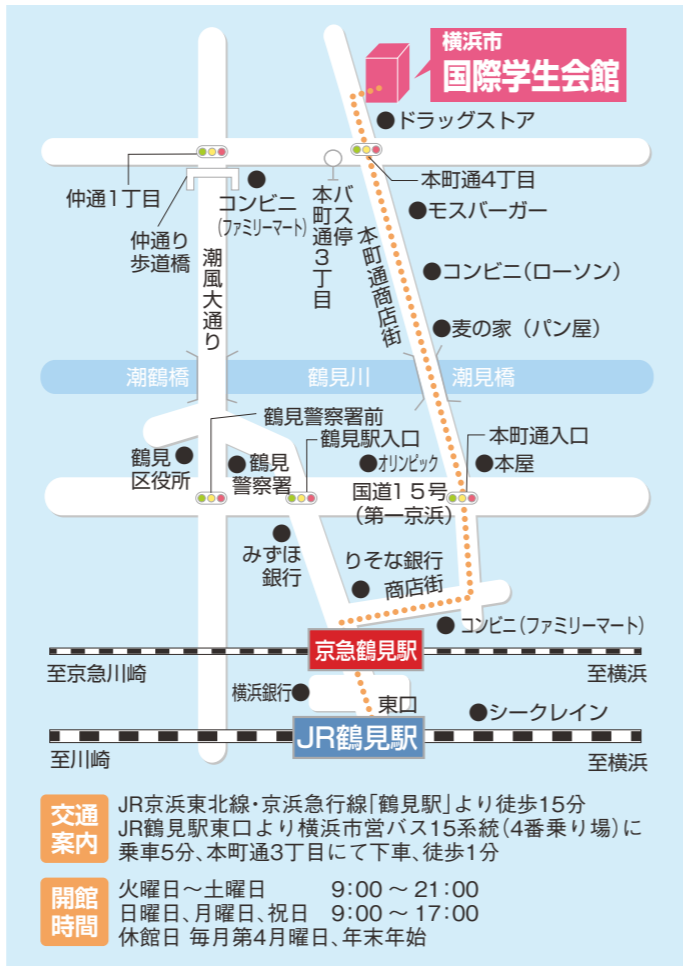
- 日 時:6/29(土) 13:30~15:00
- 場 所:国際学生会館ホール(対面式)
- 参加費:500円(中高生300円。茶菓つき)
- 定 員:30名(先着)
- 参加申込:5/7(火)よりホームページでの申込フォームまたはメールにて申込開始
- E mail:yish@yoke.or.jp

#### ◆オンライン語学サロン

留学生と外国語で1対1で会話を楽しむサロンです。

- 期 間:4月~6月
- 時 間 帯:10時~17時(土・日・月・祝)と10時~20時(火~金)
- 費 用:45分で1,000円

※ご希望の方は、まずメール(yish@yoke.or.jp)又はURL(<https://yish-yoke.com/online-salon/>)にてご希望の①言語と②時間帯明記の上、お問い合わせ下さい。留学生のスケジュール確認後、実施可否についてお知らせいたします。



**交通案内** JR京浜東北線・京浜急行線「鶴見駅」より徒歩15分  
JR鶴見駅東口より横浜市営バス15系統(4番乗り場)に  
乗車5分、本町通3丁目にて下車、徒歩1分

**開館時間** 火曜日~土曜日 9:00~21:00  
日曜日、月曜日、祝日 9:00~17:00  
休館日 毎月第4月曜日、年末年始

■発行: 横浜市国際学生会館 (YISH)  
〒230-0048 横浜市鶴見区本町通4-171-23  
Tel.045-507-0121 Fax.045-507-2441  
Email: yish@yoke.or.jp  
ホームページ: <https://yish-yoke.com>

■印刷/デザイン: ツルミ印刷株式会社

# よこはま地球村

学生会館のマスコット  
ラブアースベア

2024 No.119 春 spring

横浜市国際学生会館は、留学生等への宿泊施設の提供と市民の国際理解を目的として横浜市が開設し、公益財団法人 横浜市国際交流協会が指定管理者として管理・運営しています。

### 開催レポート

横浜市国際学生会館2023年度主催事業

留学生による文化講座

## 不思議! MYANMAR ミャンマーの伝統的な文化

### 11月25日開催しました!



ミャンマー語で名前を書いてみました。

ミャンマーの人たちが顔に塗っている白いものは何? 道端でよく見かける赤い液体の正体は……?

皆さんは、ミャンマーについて知っていることはありますか? 学生会館では、ミャンマーからの留学生ニンさんによる文化講座を行いました。「何だろう?」「不思議だな」と思うような文化も多く紹介され、参加者同士で「へーおもしろい!」と顔きながら楽しめた講座でした。「タナカ」という化粧品(日焼け止め、虫除け)の作り方と使い方をみんなで試したり、ミャンマー語で自分の名前を書いたり、アクティビティ盛りだくさんな講座となりました。

読者の皆さんも、「こんな文化知りたい!」「この国の話が聞きたい」というリクエストがありましたら、ぜひ学生会館までご希望をお寄せください。

※ちなみに、ミャンマーで人々が顔に塗っているのは「タナカ」、道端に落ちていた赤い液体の正体は「ピンロウ」の菓子の紙タバコを吐き出した跡です。



タナカの実演

#### 参加者の声

- 楽しかった! 講話も上手だったし、テーブルについてくれた留学生とも交流できて楽しかった。(40代参加者)
- 五感を上手に使った講座で楽しかった。(50代参加者)

#### 今回の講師 ニンユヤさん

この講座が上手くできるように、いろいろ教えてくださったり手伝ってくださったりした方々、学生会館の友だち皆に感謝の気持ちを伝えたいです。また、この講座に参加して下さった方々にも深く感謝いたします。緊張や不安もありましたが、皆様のおかげで上手くできました。自分にとっても、忘れられない良い思い出や経験になりました。誠にありがとうございました。今後も機会があれば、ぜひ関わりたいと思います。

#### (講師プロフィール)

フェリス学院大学 国際交流学部  
1年生。2022年5月に来日。趣味はドラマを見ることとギターを弾くこと。



### シリーズ 母国の風景

#### ボラマ(ソマリア連邦共和国)

私が生まれ育った街は「ボラマ」です。ソマリアの北西部(ソマリアとエチオピアの国境近く)にあるアウダル地域に位置しています。美しい緑豊かな丘に囲まれています。人口は約60万人です。



ボラマ街



オマル カドラ ユスフ  
(横浜国立大学大学院)

「ボラマ」の気候は乾燥しており、最高気温は24℃~30℃、最低気温は9℃~18℃です。この街は冬の寒さ、山々(シェイク・カリ・ジャワー山、ソー山な

ど)、緑豊かな郊外、そして家畜(ラクダ、羊、ヤギ、牛)で有名です。一年中観光客が訪れますが、夏はジブチよりも気候ははるかに涼しいため、ジブチから多くの人が避暑旅行に来ます。

この街には南北戦争後最初に設立された最も有名な大学「アムード大学」があり、知識の中心地でもあります。そのため、全国から学生が集まってきます。

「ボラマ」の道路、学校、病院、ホテルなどあらゆるインフラが改善されています。豊かな文化を持つ街で、古くから貿易と学問の中心地として栄えてきました。



ソマリアの地図

横浜市国際学生会館ニュース

## よこはま地球村

2024年 春号  
2024年3月1日発行 第119号



## TIF(戸塚国際フォーラム)のゲストスピーカーとして参加しています!

### 【TIFの紹介】

戸塚国際フォーラム(TIF)は在日外国人と地域住民の相互理解促進を目的に2015年に結成されました。月に2回戸塚区民活動センターを会場に英語の懇親会を行っており、外国人ゲストを招待し、母国の歴史・文化・政治経済などと共に、日本の印象等をプレゼン発表してもらう団体です。

今までに約50ヶ国、160人以上のゲストが参加し市民と活発な質疑応答を行い、国際交

流が続いています。セッション終了後は、みんなでランチを食べながら、情報交換やカジュアルトークで大変盛り上がり楽しい時間を過ごしています。(TIF共同代表 後藤憲治さん)

### 【参加した留学生の声】

●イタリアについて紹介するのは楽しかったです。みなさん優しくかったです。この経験は、役に立つと思います。コスタンテ ニコラ(イタリア/横浜市立大学)



クンジ ルーカスさん(ドイツ/横浜市立大学)が訪れた時の模様

## 「地域みんなで支え合い(愛)パーティー」に、参加しました!

11月12日に潮田西部地区の「地域みんなで支え合うまちづくり」イベントに留学生たちが参加しました。

### 【参加した留学生の声】

●私はコミュニティイベントに参加し、地域住民の方々に韓国とネパールのお茶を売りました。地域住民と一緒にイベントだったので、楽しめました。普段は大学生以外の日本人の方々と会話をする機会がないので、今回のイベントを通じてより多様な

人々と会話を交わすことができました。キム ジュンミン(韓国/横浜市立大学)

●地域の方々にネパールのお茶とお菓子を紹介できてとても嬉しかったです。「ネパールのお茶は初めて。美味しい!」と言って2~3回おかわりした方もいました。元々交流が好きな私は地域の方々と和気あいあいと、イベントで、楽しい時間を過ごすことができました。ジョシ プラナンダ(ネパール/あずま工科専門学校)



## 金沢シーサイドFMに、出演しました!

11月17日(金)のお昼の時間に(株)Stock Baseの提供で放送されている、金沢シーサイドFM『生まれ!地域のヒーローズ!』で学生会館を紹介するために、3人の留学生が出演しました。(株)Stock Baseは、学生会館が食料支援等で、お世話になっている団体です。留学生たち(ノラさん、ウリケさんとベネディクトさん)はオーストリアから横浜市立大学に交換

留学生で来日した学生です。3人とも初めてラジオに出演するとは思えないほど、物おじすることなく、楽しく日本での体験等を話してくれました。広島でのボランティア体験、日本の大学で初めてダンス(ヒップホップ)のサークルに入った事、好きな食べ物はたこ焼きや抹茶等、話がつきませんでした。



出演に協力した留学生たち

## 今年も、本町通り四丁目の冬祭り「餅つき大会」に参加させていただきました!

### 【留学生たちの声】

●とても楽しめました。近所の人たちと触れ合う経験もとてもすてきでした。初めて餅つきもしました! ありがとうございます。

ワーディン アヌ(ドイツ/横浜市立大学)

●伝統的な餅つきを見るのは初めてだったので、とても楽しかったです。地域の方々がとてもよくしてくださり、手作りのお餅は本当に美味しかったです。ルックルワン コチャニパ(タイ/理化学研究所)

●楽しかった! 素晴らしい学びの経験で、地域の人々との触れ合いも楽しかったです。

また、異なる国々から来た人たちが一同に集まり友達になれたこともよかったです。カルポウ ジョーダントーマス(アメリカ/横浜市立大学)



## 鶴見国際交流ラウンジで活動しています!

私は2023年の1月から鶴見国際交流ラウンジでアルバイトを始めました。鶴見国際交流ラウンジは多文化共生というテーマを中心に鶴見で外国人と日本人の繋がりを作り出しています。私は中国の留学生として、自分の母国語と大学で学んだ英語と日本語を使って鶴見地域の住民で、困っている人々を手助けしています。具体的な仕事は、ラウンジから発信

している情報を中国語に翻訳したり、横浜市の学校と行政機関からの面談通訳依頼を受け、YOKEのデータベースから通訳ボランティアを探し出して派遣したりしています。ラウンジでの仕事は、私の日本語能力の向上につながっています。また、多文化共生のために地域での人々の繋がりの大事さをよく理解するようになりました。



ソウ コウコ(神奈川大学)

## 潮田小学校「人権週間」で出前授業の講師を務めました!

私はブラジル生まれ育ちで、子どもの頃から日本に憧れていました。昨年の8月末に来日し、源氏物語と音楽について研究をしています。12月上旬に潮田小学校で私のルーツ、日本への憧れ、日本語を学ぶ経験などについてお話する機会をいただきました。外国、特にブラジルにつながる子どもたちが多く聞き、学校での話を楽しみにしていました。住み慣れた土地

を離れ、新しい国で生活する大変さや挑戦することの大切さなど、私の気持ちを子どもたちに伝えることができ、本当に良かったです。また、一緒にボディパーカッションをやり、身も心も温まりました。日本に住んでいる間に、地域コミュニティとさらに携わっていきたくと思います。



ミンドリン シャビエル エレナ(アメリカ・カナダ大学連合日本研究センター)

## 「クリスマスランタンフェスタ2023」で2日間ボランティア活動をしました!

12月15日に前年使われたろうそくをプラスチックボトルから取り出し、新しいろうそくをセットし直す仕事をしました。16日のイベント当日は、風で消えたらろうそくに火をつける仕事をしました。

この活動には、亡くなられた大切な方々を追悼する意味も込められており、灯されたろうそくは彼らへの祈りの象徴です。中国の中元節とも似ていると感じました。この体験を通じて、特に私の亡くなった祖母を思い出しました。私は炎が希望の象徴であると感じており、灯された瞬間はまるで希望が燃えているような気持ちになりました。私はこれらの

感情を共有し、将来も自分の人生の「守火人」となり、いつでも希望を再燃させる勇気を持ちたいと思っています。ボランティア活動への参加は、私にとって本当に嬉しい経験でした。他人の助けになれること、そしてイベントを成功に導くことで達成感を味わえることが大きな喜びです。このような活動を通じて、日本の文化により深く浸ることができ、それが私の人生経験を豊かにしてくれています。これからもこのような機会に参加し、自分の成長と共に、他者にも何か良い影響を与えられるような人生を歩んでいきたいと考えています。



モウ ニ(関東学院大学)

## 寺尾地区センターと潮田地区センターで文化講座の講師をつとめました。

12月7日に寺尾地区センターの文化講座『ウズベキスタンってどんな国』で自国の紹介をしました。ウズベキスタンに関心を持っている沢山の方々が講座に参加してくださいました。参加者の中に以前からの知り合いが3人もおり、びっくりしました。また、ウズベキスタンに旅行で訪れたことのある参加者も数人いらして、当時撮った写真を見せながら旅行中のときの話を聞かせてくれました。質疑応答では、ウズベキスタンの政治体制、経済状況、宗教、言語、食べ物など多くの質問があり、非常に活発な交流となり、とても温かな雰囲気の中で講座ができ、嬉しかったです。

12月16日に潮田地区センターの講座「留学生に学ぶウズベキスタンの料理と文化」で

は、ウズベキスタンでよく食べられている家庭料理「マスタヴァとサムサ」の作り方を説明し、参加者と一緒に作りました。料理教室の講師としてワクワクした面白い体験でした。料理を煮込んだり、焼いたりしている時間を利用して、ウズベキスタンの文化(特に食文化)について紹介しました。最後に、参加者と一緒にでき上がった料理を食べながら交流をしました。機会がありましたら、今後もウズベキスタンの食文化を沢山の日本人に紹介したいです。



スルトノヴァ ヒロラ(留学生の家族)